

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 0421300042 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 豊明会 | | |
| 事業所名 | グループホーム桂葉 ユニット:蔵王 | | |
| 所在地 | 宮城県栗原市高清水新桂葉278-2 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年7月6日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ | | |
| 所在地 | 宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階 | | |
| 訪問調査日 | 2021年 8月10日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会福祉法人豊明会は、特別養護老人ホーム若藤園、特別養護老人ホーム桂葉や障がい者施設等15の事業所の運営をしております。いくつになってもその人らしい暮らしのお手伝いをスローガンに地域の困っている人のちからになることを目指しています。グループホーム桂葉は高清水地区を中心とした、住み慣れた地域の中で暮らせる環境を大切にしております。基本理念に、「私たちはアットホームな環境を整える為、地域の皆様と共に楽しい時を過ごしなが、温かい家創りを目指します。」を基に住み慣れた地域で安心して過ごしてもらえるよう職員一同で取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、周辺に名水桂葉清水、神社があるのどかな田園地帯の一角にある2ユニットの木造平屋建て造りである。また、近隣に高清水総合支所や同法人の特別養護老人ホームなどが隣接するなど、連携が図りやすい環境である。法人は1989年に設立され、高齢者福祉・障がい者福祉・障がい児福祉サービスの事業所を若柳、高清水、金成で運営し地域福祉に貢献している。開設11年を迎え、ホームの理念「私たちはアットホームな環境を整える為、地域の皆様と共に楽しい時を過ごしなが、温かい家創りを目指します。」を掲げている。職員は、家族的な雰囲気の中、一人ひとりの生活リズムを大切に、自宅で過ごしてきた生活が継続できるよう努めている。コロナ禍以前は、地域行事に参加し、住民と顔馴染みの関係を築いていた。利用者や家族からの意見や、満足度調査や運営推進会議などで出された意見を検討し、入浴リフトチェアの導入や居室の空気清浄機設置など、運営に活かし、ケアの質の向上に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|---|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。 | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホーム桂葉 ）「ユニット名 蔵王 」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 住み慣れた地域の中でその人らしい生活が続けられるように、職員一人一人が理念を理解し実践に繋げていけるよう努めている。 | 理念は、開所時に全職員で話し合い作り上げたものである。年1回、スタッフ会議で振り返りを行い、玄関・事務室に掲示し、いつでも確認できるようにしている。職員は理念を念頭に、利用者が自宅で暮らしていた時のように、地域の中でその人らしく生活できるよう支援している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 高清水地域の敬老会やお祭りなどに参加し地元の方々と交流できるよう努めている。 | 町内会には加入していないが、毎年、地域の夏祭りや敬老会等に参加し交流していたが、コロナ禍で地域行事は中止となり、交流が出来ていない。法人広報誌「豊明会だより」を毎月、事業所広報紙「きずな」を年4回、行政区全戸に配布し、ホームの様子を伝えている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 利用者の支援を基盤に、地域の方々の認知症の人へ理解や支援を地域包括支援センターの方々と共に取り組んでいる。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に一度の運営推進会議では、利用者状況や取組など報告している。会議で出された意見はサービスの向上に活かしている。今年度はコロナウイルス感染防止により実施出来ていない。 | 隔月、市職員、地域包括職員、区長、民生委員、家族代表、職員で開催していたが、コロナ禍で開催できていない。以前は入居者状況や活動・事故報告などを行い、意見交換し、サービスの向上に活かされていた。現在は、広報紙を配布し報告を行っており、コロナ禍での会議の開催方法を検討中である。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市職員には、運営推進会議へ参加して頂き事業所の実情を伝えたり、地域の情報等を情報交換し協力を築いている。 | 市の担当者とは、運営推進会議で連携体制が構築され、相談しやすい関係である。日常的に生活保護の利用者の状況報告や相談を行っている。また、ICT(情報通信技術)を活用した見守りセンサー設置の支援があり、研修案内もある。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 年2回の研修の実施、身体拘束についての話し合いを設け、学ぶ機会と理解に努めている。利用者、家族に対しては説明し身体拘束の弊害について理解いただいている。 | 新規採用時と年2回の職員研修を実施し、身体拘束適正化指針を作成し、3ヶ月ごと「身体的拘束適正化検討委員会」を開催し、身体拘束をしないケアに努めている。玄関施錠は19時から8時半まで、日中は防犯上センサーを活用している。外出要求が強い利用者には、職員が付き添い散歩などで気分転換を図っている。 | |
| 7 | (6) | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止について内部研修の実施、学ぶ機会を持ち理解を図っている。日常生活の関わりの中で虐待が起きないように職員同士注意してケアに努めている。 | 年2回、虐待防止の研修を実施している。不適切な言葉遣いやケア等、職員同士で注意し合い、スタッフ会議やユニット会議で検討し、虐待防止に努めている。職員の精神的負担が虐待の要因にも繋がることから、年2回の定期面談や必要に応じ随時面談を実施し、精神的負担軽減に努めたり、必要に応じ配置転換等も行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 内部研修で権利擁護に関する制度の理解を学ぶ機会を持ち理解に努めている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時には、十分な説明に努め、不安や疑問がないか確認し理解、納得して頂けるよう努めている。 | | |
| 10 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議への参加を通し、意見や要望を伺う機会を設けている。また、面会時にも意見や要望、心配なことがないか伺いサービスの向上に努めている。 | 家族会はないが、面会時や運営推進会議、年1回の満足度調査等で意見や要望を聞いている。出された意見や要望は、毎月のスタッフ会議やユニット会議で、できるだけ応えられるよう検討し、運営やケアに活かしている。コロナ禍で、現在家族からは主に電話で、本人の様子を伝えて意見・要望を聞いている。 | |
| 11 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | スタッフ会議、ユニット会議を毎月行い、職員の意見や思い、提案を聞く環境を整え業務改善に取り組んでいる。 | 毎月のスタッフ会議やユニット会議、年2回の定期面談時に職員から意見・要望を聞いている。また、管理者は日常的にも職員の意見を聞くよう、心掛けている。職員から、コロナ禍での行事について見直し等が提案され検討した。外部研修参加の際は出勤扱いとしたり、資格取得支援も積極的に行う等、働く意欲やスキルアップができるよう繋げている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年2回の職員面談実施。職員個々の目標や達成、勤務状況を把握し、職場環境、条件の整備に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 理事長は、管理者や職員の経験、能力に応じて研修等の機会を計画し、職員の育成を行っている。 | | |
| 14 | (9) | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | 関連医療法人の事業所と連携会議に参加するなど、情報の共有を図っている。また、外部研修を通して同業者とのネットワーク作りや情報交換しケアの向上に繋げている。 | 関連医療法人との連携会議に参加したり、地域包括支援センター主催の地域ケア会議に参加し情報共有に努めている。同法人の他のグループホームとは、運営やケアについて相談や情報交換など、連携を図っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に、本人、家族の意向、要望を確認し、不安なく今まで通りの生活が続けられるよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居に対する不安や質問等を伺い、分かりやすい説明に努め、納得した上で安心してサービスを利用して頂けるよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人や家族の思いや状況等を確認し、本人に合ったサービスの提案、支援をしている。他サービス機関との連携調整も行っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 出来る事、続けられることを見極め、お互いが助け合って生活できる環境に努めている。 | | |
| 19 | | ○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 生活の様子や体調などを電話や面会時などに報告、相談し協力が得られている。 | | |
| 20 | (10) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族の協力を得て、地域での触れ合いの場へ参加したり、通い慣れた美容院など関係が続けられるよう支援している。今年度はコロナウイルス感染防止の為、支援が出来ていない。 | 現在、新型コロナウイルス感染症対策として、面会や外出を制限しており、テレビ電話での面会等を検討している。以前は、馴染みの美容院に通う利用者もいたが、現在は月1回、訪問理容がある。家族や友人との電話や、はがきのやり取りで関係継続を支援している。家族との通院時に外食をする人もいる。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の関わり合いを大切にし、馴染みの関係の中で安心して過ごせる環境作り | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス終了後も相談に応じ対応している。病院や他施設へ移る必要がある場合でも十分な説明を行い、事前に情報提供を行っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (11) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 個性、生活習慣を把握し、日常の関わりの中から思いや希望を引き出せるように努めている。 | 以前の生活習慣など、家族からの聞き取りから、本人のやりたいこと、やれそうなことを色々模索しながら、本人の思いや希望の実現に繋いでいる。居室担当職員は、居室で一對一になったとき利用者の会話や表情から把握した意向などの情報を、ユニット会議や介護計画作成時に報告し、一人ひとりの意向にそったケアの実践に努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前の聞き取りの情報を基に、入居後本人、家族や親せきなど面会時に話を伺い把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | カンファレンスや職員の気づきを大切にし、一人ひとりの心身の状態や出来る事の把握に努めている。 | | |
| 26 | (12) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 6ヶ月に1回モニタリングを実施し、本人本位の暮らしを実現する為、本人、家族の意向の確認、必要な関係者と課題とケアについて話し合い、それぞれの意見を反映しながら介護計画を作成している。 | 毎月のスタッフ会議やユニット会議でカンファレンスを行い、6ヶ月毎にモニタリングを実施している。利用者や家族からも意見を聞き、本人がより良く暮らせるための課題やケア方法について話し合いを重ね、年2回介護計画を見直している。見直し後は、家族に説明し同意を得ている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子やケアの実践、結果を個人ケース記録、介護日誌に記録している。職員間で情報を共有し実践や介護計画に活かせるようにしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | その時の変化やニーズに合わせて柔軟な対応、支援が出来るように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の広報誌や地域の方から情報を頂き活用している。また、地域の消防と連携し、年2回の避難訓練を実施している。 | | |
| 30 | (13) | ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人、家族の希望により主治医に継続的に受診している。主治医と連携しながら適切な医療が受けられるよう支援している。 | 利用者、家族が希望するかかりつけ医を受診している。基本、通院は家族が付き添い、受診の際は、ホームでの状態を書面にして情報提供し、適切な医療が受けられるよう支援している。受診後は家族から報告を受け、申し送りノートに記録し職員間で情報共有を図っている。協力医療機関がかかりつけ医の場合、訪問診療を受けている。訪問歯科医が訪問し、口腔内ケアを実施している。 | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 隣接している特養の看護師の協力を得たり、協力医への相談等連携が築けている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 医療機関、医師と連携し、情報共有、退院に向けての相談など行い対応している。 | | |
| 33 | (14) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化や終末期のあり方について家族に事業所で出来る事を十分に説明し、協力医、家族と話し合いを進めながら行っている。 | 入居時に、重度化や終末期の対応について、事業所でできることを家族に口頭で説明している。看取りは行っていない。食事が摂れなくなったり、医療行為が必要になった場合には、再度、家族と話し合い、連携を図りながら医療機関への入院や同法人の特別養護老人ホームへの入所等の支援方針を決めている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変や事故発生時に備えて定期的な内部研修の実施、マニュアルを備え付けて全ての職員が実践できるようにしている。 | | |
| 35 | (15) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 災害時マニュアルを作成、定期的な訓練の実施に努め災害時に対応できるようにしている。近隣施設と協力体制を築いている。 | 火災、風水害、地震対応マニュアルを作成し、ハザードマップ、防災マップを事務室と各ユニットに掲示している。介護老人福祉施設と災害時の対応について、ホームを災害時の避難場所とするなど、協定を締結している。4月に職員の通報訓練、消火訓練を実施した。設備点検は年2回業者が行い、非常用備蓄は1週間分用意している。コロナ対策として、手洗い、うがい、マスク着用、施設内の消毒や換気を徹底し、職員は出勤前に検温したり、宮城県の要請を受け、抗原定性検査を2週間に1回行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (16) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者のプライバシーに配慮し、プライド、誇り、尊厳を傷つけない言葉かけや対応をしている。 | 呼び名は、苗字か名前に「さん」付けて呼んでいる。年2回、接遇やプライバシー保護について研修を行い、職員は利用者一人ひとりの人格を尊重した言葉掛けや対応を心掛けている。居室への入室の際にはノックと声掛けを行い確認し、排泄介助時は、さりげなく、対応している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者が思いや希望を表せる環境作りや関わりに努めている。自ら選択できるような場面を作れるように配慮している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者個々のペースに寄り添い、今まで通りの生活が続けられるよう配慮している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | その人らしさを大切に、希望に沿った身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。 | | |
| 40 | (17) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者の嗜好性に十分配慮し、楽しく食事が出来る雰囲気作りをしている。利用者と職員が一緒に準備や片付けをしている。 | 法人の管理栄養士が作成した献立を基に、職員が利用者の好みや旬の食材を取り入れ、アレンジして作っている。野菜洗いや盛り付け、配膳、下膳など利用者の持てる力を活かして一緒に行っている。ひな祭りのちらし寿司や誕生会のケーキ、夏の縁日メニューとして焼き鳥等、食事を楽しむ工夫を取入れている。リビングの黒板に、当日の献立を掲示しており、楽しみにしている利用者もいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事内容は季節に合ったメニュー、食材を選び、栄養バランスが取れるよう配慮している。また、個別に状態に合わせた提供もしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 一人ひとりの口腔状態や能力に合わせた支援、口腔衛生に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (18) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 羞恥心や自尊心を大切に、排泄のどの部分に支援が必要かを探りながら、できない部分を見極めて支援している。 | 一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者に合わせて声掛け誘導を行い、トイレで排泄ができるよう支援している。自宅ではポータブルトイレを利用して人がトイレで排泄できるようになった。夜間のみ離床センサーを使用している人もいる。便秘予防として、乳製品や野菜ジュースなどを献立に取り入れたり、お腹のマッサージやテレビ体操をしている。医師の処方のもと、薬を服用する人もいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 飲食物等で工夫したり、排便リズムを把握し便秘が考えられる時は、医師と相談し下剤でコントロールしている。 | | |
| 45 | (19) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている | 利用者の希望やタイミングに合わせて支援している。個々の習慣を尊重し必要な部分を支援している。 | 週2回を基本に入浴支援を行い、個々の希望にも対応している。湯は、午前と午後に変換し、好みの湯温や入浴剤等を活用し気持ちよく入浴できるよう努めている。入浴補助のためのリフトチェアの機械浴導入で、車椅子の人でも安心して浴そうに移乗でき湯につかれるようになった。入浴拒否の人には無理強いせず、声掛けを工夫したり、時間や日にちを変えるなどしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 生活習慣を踏まえ、生活リズムが整えられるよう支援している。安心して気持ちよく眠れる環境作りに努めている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の管理は職員が行っている。職員が手渡し飲み終えるまで確認している。薬の目的、用法や用量を把握し適切に服用できるようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 利用者の生活歴や能力、希望に配慮しながら日課や役割、出来る事が続けられるよう支援している。 | | |
| 49 | (20) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 行事等を企画し、定期的な外出が出来るよう支援している。今年度はコロナウイルス感染防止の為、近隣の散歩やドライブを希望を伺いながらしている。 | 外出の年間計画を立て、車椅子の利用者も一緒に四季折々の外出を楽しんでいたが、コロナ禍で遠方へのドライブなどは控えている。春には近隣の桜を見に出掛けたり、天気の良い日は、ホームの近くを散歩したり、日光浴を兼ねてシャボン玉をしてみたり、気分転換を図っている。 | 1年間外出の機会を増やす取り組みを行ってきたが、コロナ禍でますます外出の機会が減っている。今後も安全面を考慮して、戸外での過ごし方を工夫し、利用者の満足度を高めることを引き続き期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭管理は職員がしている。個別に希望や力に応じて所持したり、使える様に支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 利用者、家族から電話希望があった時はその都度対応している。手紙等は直接手渡ししている。 | | |
| 52 | (21) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節感や生活感が感じられる環境作りと、安心感と居心地に配慮した工夫をしている。 | リビングは明るく、窓際にはソファが置かれ、そこから眺められる田園風景は四季の移ろいを感じさせてくれる。リビングの時計や日めくりカレンダーは見当識に配慮されている。壁には、利用者と職員が一緒に作った季節に合わせた折り紙作品が飾られている。リビングの一角には小上がりの和室があり、ひな祭りにはお雛様が飾られている。温・湿度管理、換気は職員が行っている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | フロアでは利用者が気の合った利用者と思われる座席の配慮や窓際にソファを置いて独りになれる空間作りをしている。 | | |
| 54 | (22) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者の馴染みのある家具や使い慣れたもの、家族の写真などを持ち寄って頂き、本人が居心地良く過ごせるよう配慮している。 | 居室にはベッド、クローゼット、エアコン、換気扇、空気清浄機、ナースコール、スプリンクラー、火災報知器が備わっている。各々自宅から馴染みのタンスやテーブル、椅子などを持ち込み、壁には手作りカレンダーや家族写真などが飾られ、利用者に合わせて部屋作りをしている。職員は毎日、掃除や温・湿度管理、換気を行い、居室担当職員が利用者と一緒にクローゼットの整理や衣替えをしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 安全な環境整備、動線を考えている。トイレや居室に目印をつけたり工夫している。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 0421300042 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人豊明会 | | |
| 事業所名 | グループホーム桂葉 ユニット:栗駒 | | |
| 所在地 | 宮城県栗原市高橋水新桂葉278-2 | | |
| 自己評価作成日 | | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ | | |
| 所在地 | 宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階 | | |
| 訪問調査日 | 2021年 8月10日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム桂葉では、高清水地域の方々との交流を大切にしています。またグループホーム桂葉での運営理念は「私達は、アットホームな環境を整えるため、地域の皆様方と共に楽しい時間を過ごしながらか、暖かい環境作りを目指します」をもとに職員一人ひとりが運営理念を理解し、心掛けることにより利用者様にとってよい環境を提供出来るように心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、周辺に名水桂葉清水、神社があるのどかな田園地帯の一角にある2ユニットの木造平屋建て造りである。また、近隣に高清水総合支所や同法人の特別養護老人ホームなどが隣接するなど、連携が図りやすい環境である。法人は1989年に設立され、高齢者福祉・障がい者福祉・障がい児福祉サービスの事業所を若柳、高清水、金成で運営し地域福祉に貢献している。開設11年を迎え、ホームの理念「私たちはアットホームな環境を整える為、地域の皆様と共に楽しい時を過ごしながらか、温かい家創りを目指します。」を掲げている。職員は、家族的な雰囲気の中、一人ひとりの生活リズムを大切に、自宅で過ごしてきた生活が継続できるよう努めている。コロナ禍以前は、地域行事に参加し、住民と顔馴染みの関係を築いていた。利用者や家族からの意見や、満足度調査や運営推進会議などで出された意見を検討し、入浴リフトチェアの導入や居室の空気清浄機設置など、運営に活かし、ケアの質の向上に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|---|-----------------------|---|----|--|-----------------------|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。 | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホーム桂葉 ）「ユニット名 栗駒」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | グループホーム桂葉の基本理念を掲示し、理念を確認し実践しようとしている。 | 理念は、開所時に全職員で話し合い作り上げたものである。年1回、スタッフ会議で振り返りを行い、玄関・事務室に掲示し、いつでも確認できるようにしている。職員は理念を念頭に、利用者が自宅で暮らしていた時のように、地域の中でその人らしく生活できるよう支援している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 新型コロナウイルス流行の為、外出や交流はほとんど出来ていない。 | 町内会には加入していないが、毎年、地域の夏祭りや敬老会等に参加し交流していたが、コロナ禍で地域行事は中止となり、交流が出来ていない。法人広報誌「豊明会だより」を毎月、事業所広報紙「きずな」を年4回、行政区全戸に配布し、ホームの様子を伝えている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 認知症の方への理解や支援を地域支援包括センターの方々と取り組んでいる。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 数か月に1度運営推進会議を開催し、グループホーム桂葉の取り組みを報告する。会議での意見はサービス向上のために活かしている。 | 隔月、市職員、地域包括職員、区長、民生委員、家族代表、職員で開催していたが、コロナ禍で開催できていない。以前は入居者状況や活動・事故報告などを行い、意見交換し、サービスの向上に活かされていた。現在は、広報紙を配布し報告を行っており、コロナ禍での会議の開催方法を検討中である。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市職員の方にも運営推進会議に参加させていただいている。生活保護を受けている利用者の方もいるため報告している。 | 市の担当者とは、運営推進会議で連携体制が構築され、相談しやすい関係である。日常的に生活保護の利用者の状況報告や相談を行っている。また、ICT(情報通信技術)を活用した見守りセンサー設置の支援があり、研修案内もある。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束をテーマにした内部研修を行い、どういったケアが身体拘束にあたるか確認しながらケアにあたっている。 | 新規採用時と年2回の職員研修を実施し、身体拘束適正化指針を作成し、3ヶ月ごと「身体的拘束適正化検討委員会」を開催し、身体拘束をしないケアに努めている。玄関施錠は19時から8時半までで、日中は防犯上センサーを活用している。外出要求が強い利用者には、職員が付き添い散歩などで気分転換を図っている。 | |
| 7 | (6) | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待をテーマに内部研修実施している。どういった事が虐待に当たるか、職員同士の意識や理解を深め、普段のケアには注意しながら業務に当たっている。 | 年2回、虐待防止の研修を実施している。不適切な言葉遣いやケア等、職員同士で話し合い、スタッフ会議やユニット会議で検討し、虐待防止に努めている。職員の精神的負担が虐待の要因にも繋がることから、年2回の定期面談や必要に応じ随時面談を実施し、精神的負担軽減に努めたり、必要に応じ配置転換等も行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護の内部研修を実施し、内容の理解、確認を行っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入所時の契約時十分な説明をし、疑問や不安な点を確認している。 | | |
| 10 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 電話連絡や来設時ご家族様から頂いた意見や要望を伺い、ユニット会議やスタッフ会議の際に話し合い、改善していけるように努めている。 | 家族会はないが、面会時や運営推進会議、年1回の満足度調査等で意見や要望を聞いている。出された意見や要望は、毎月のスタッフ会議やユニット会議で、できるだけ応えられるよう検討し、運営やケアに活かしている。コロナ禍で、現在家族からは主に電話で、本人の様子を伝えて意見・要望を聞いている。 | |
| 11 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月1回のスタッフ会議を行い、意見や提案をしやすい環境整備を行っている。 | 毎月のスタッフ会議やユニット会議、年2回の定期面談時に職員から意見・要望を聞いている。また、管理者は日常的にも職員の意見を聞くよう、心掛けている。職員から、コロナ禍での行事について見直し等が提案され検討した。外部研修参加の際は出勤扱いとしたり、資格取得支援も積極的に行う等、働く意欲やスキルアップができるよう繋げている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年2回のパーソナルレポートを提出し、管理者との面談を行っている。個人の意見や職場での問題点を話し合っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 理事長は管理者や職員の経験や能力に応じて外部研修や内部研修を計画的に行っており育成に当たっている。 | | |
| 14 | (9) | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | 施設の関連医療法人の事務所と連絡会議に参加し情報の共有を図っている。 | 関連医療法人との連携会議に参加したり、地域包括支援センター主催の地域ケア会議に参加し情報共有に努めている。同法人の他のグループホームとは、運営やケアについて相談や情報交換など、連携を図っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所時、本人や家族が不安なことや相談事に耳を傾けている。入所後も不安や要望があればその都度傾聴し安心の確保に努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所相談時、面会時等の際にご家族様の不安や要望を伺い、改善できるように努力していっている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人様やご家族様にその際の要望の確認をし、その方に合ったサービス提供が出来るように努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | その方に合った出来る事を職員が声掛けをし、職員と共に行き、関係を築きながら生活をしている。 | | |
| 19 | | ○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 電話連絡や来設の際に家族様には最近の様子を伝えるようにしている。本人様や家族様の要望があれば協力をしていき関係を築いている。 | | |
| 20 | (10) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 遠方に暮らす子供や昔からの友人との電話やはがきのやり取りを行い、関係性が途切れないように努めている。 | 現在、新型コロナウイルス感染症対策として、面会や外出を制限しており、テレビ電話での面会等を検討している。以前は、馴染みの美容院に通う利用者もいたが、現在は月1回、訪問理容がある。家族や友人との電話や、はがきのやり取りで関係継続を支援している。家族との通院時に外食をする人もいる。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者様同士の関係には気を付けながら、余暇活動や行事の参加を働きかけている。一部の利用者様が孤立の無く支え合えるように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービスの提供が終了しても、ご家族様などからの相談があれば、応じている。他施設に入所や病院への入院がある際は情報の提供を行っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (11) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者様一人ひとりが生活の中での希望や意向が把握できるように職員が確認に努めている。困難な方への対応は行動や表情を確認しながら汲み取るようにしている。 | 以前の生活習慣など、家族からの聞き取りから、本人のやりたいこと、やれそうなことを色々模索しながら、本人の思いや希望の実現に繋いでいる。居室担当職員は、居室で一对一になったとき利用者の会話や表情から把握した意向などの情報を、ユニット会議や介護計画作成時に報告し、一人ひとりの意向にそったケアの実践に努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所の前に実態調査で本人様へ聞き取りを行い、その内容を基に家族様へお話を伺いながら把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日常生活の中で一人ひとりの状態の把握を行う。またユニット会議を毎月開催し利用者様の様子を話し合い、職員間の情報の共有に努めている。 | | |
| 26 | (12) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 利用者様について話し合いを設けている。ほんや家族様からも意見や要望を伺いながら介護計画を作成している。 | 毎月のスタッフ会議やユニット会議でカンファレンスを行い、6ヶ月毎にモニタリングを実施している。利用者や家族からも意見を聞き、本人がより良く暮らせるための課題やケア方法について話し合いを重ね、年2回介護計画を見直している。見直し後は、家族に説明し同意を得ている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子は介護日誌、ケース記録へ記入する。また普段と違う様子が見られた際は、職員間で情報を共有しケアにあたり、介護計画の見直しにも生かしていけるようにしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | その時々合ったニーズで対応していき、柔軟な支援、サービスを提供していけるように取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の広報誌等から情報を頂き活用している。また地域の消防署と連携し年2回の避難訓練を行っている。 | | |
| 30 | (13) | ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 当施設の協力医療機関の回診を週一回実施している。体調不良、急変時には常に連絡、相談が出来、指示を頂き対応できるようにしている。 | 利用者、家族が希望するかかりつけ医を受診している。基本、通院は家族が付き添い、受診の際は、ホームでの状態を書面にして情報提供し、適切な医療が受けられるよう支援している。受診後は家族から報告を受け、申し送りノートに記録し職員間で情報共有を図っている。協力医療機関がかかりつけ医の場合、訪問診療を受けている。訪問歯科医が訪問し、口腔内ケアを実施している。 | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 隣接している特養の看護職員の協力を頂いたり、協力医へ相談することで対応している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 医療機関の医師と相談、意見交換を行いながら、対応している。 | | |
| 33 | (14) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化、終末期のあり方については、事業所で出来る事を協力医と連携しながら家族様への説明をしていきながら支援している。 | 入居時に、重度化や終末期の対応について、事業所でできることを家族に口頭で説明している。看取りは行っていない。食事が摂れなくなったり、医療行為が必要になった場合には、再度、家族と話し合い、連携を図りながら医療機関への入院や同法人の特別養護老人ホームへの入所等の支援方針を決めている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時、事故発生時に備え救命講習を受講している。施設でマニュアル作成しており全職員が緊急時対応できるようにしている。 | | |
| 35 | (15) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 災害があった際の対応についての内部研修を実施している。また定期的な訓練も行ない、災害時の対応が出来る様にしている。 | 火災、風水害、地震対応マニュアルを作成し、ハザードマップ、防災マップを事務室と各ユニットに掲示している。介護老人福祉施設と災害時の対応について、ホームを災害時の避難場所とするなど、協定を締結している。4月に職員の通報訓練、消火訓練を実施した。設備点検は年2回業者が行い、非常用備蓄は1週間分用意している。コロナ対策として、手洗い、うがい、マスク着用、施設内の消毒や換気を徹底し、職員は出勤前に検温したり、宮城県からの要請を受け、抗原定性検査を2週間に1回行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (16) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者様の尊厳やプライバシーが損ねないように職員は声かけ、言葉使いに注意し対応するようにしている。 | 呼び名は、苗字か名前に「さん」付けで呼んでいる。年2回、接遇やプライバシー保護について研修を行い、職員は利用者一人ひとりの人格を尊重した言葉掛けや対応を心掛けている。居室への入室の際にはノックと声掛けを行い確認し、排泄介助時は、さりげなく、対応している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者様が希望することがあれば、出来る限りの対応をしている。また利用者様自身が選択できるような場面も提供出来るようにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者様が自分のペースで毎日を過ごして頂けるように支援するようにしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 毎朝身だしなみを整えられるように環境整備を行っている。また毎週日曜日に爪切りを実施するなど身だしなみの支援をしている。 | | |
| 40 | (17) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 職員と盛り付けを行っていたり、後片付けも行う。利用者様一人ひとりの好みや苦手なものには注意しながら、提供している。 | 法人の管理栄養士が作成した献立を基に、職員が利用者の好みや旬の食材を取り入れ、アレンジして作っている。野菜洗いや盛り付け、配膳、下膳など利用者の持てる力を活かして一緒に行っている。ひな祭りのちらし寿司や誕生会のケーキ、夏の縁日メニューとして焼き鳥等、食事を楽しむ工夫を取入れている。リビングの黒板に、当日の献立を掲示しており、楽しみにしている利用者もいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養バランスを考えての食事、水分提供が出来るように対応していく。また利用者様一人ひとりに合った食事提供が出来るように配慮していく。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後の口腔ケアを行っている。ご自分での対応が難しい場合は職員が介助し口腔内の清潔に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (18) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 利用者様一人ひとりの排泄パターンを排泄表で記録し、声がけ、トイレ誘導行い失禁防止に努めている。 | 一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者に合わせて声掛け誘導を行い、トイレで排泄ができるよう支援している。自宅ではポータブルトイレを利用して人がトイレで排泄できるようになった。夜間のみ離床センサーを使用している人もいる。便秘予防として、乳製品や野菜ジュースなどを献立に取り入れたり、お腹のマッサージやテレビ体操をしている。医師の処方のもと、薬を服用する人もいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食事の工夫や水分のこまめな提供をし便秘予防に努めている。 | | |
| 45 | (19) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | 職員は声がけし利用者様に合わせた入浴が出来るように対応している。拒否が有る際は時間をずらす等で配慮しながら対応している。 | 週2回を基本に入浴支援を行い、個々の希望にも対応している。湯は、午前と午後に交換し、好みの湯温や入浴剤等を活用し気持ちよく入浴できるよう努めている。入浴補助のためのリフトチェアの機械浴導入で、車椅子の人でも安心して浴そうに移乗でき湯につかれるようになった。入浴拒否の人には無理強いせず、声掛けを工夫したり、時間や日にちを変えるなどしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人ひとりの生活に合わせて日中、活動を働きかけたり、静養を働きかけながら、夜間休まれる様に支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 内服薬は職員が管理する。内服の際は誤訳の無いように名前の確認する。また確実に内服したかの確認もしている。薬の用法、用量の理解も行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 本人様が自ら役割や楽しみが出来るように、職員は支援している。 | | |
| 49 | (20) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 新型コロナウイルス流行の為、外出は控えている為、ほとんど出来ていない。 | 外出の年間計画を立て、車椅子の利用者も一緒に四季折々の外出を楽しんでいたが、コロナ禍で遠方へのドライブなどは控えている。春には近隣の桜を見に出掛けたり、天気の良い日は、ホームの近くを散歩したり、日光浴を兼ねてシャボン玉をしてみたり、気分転換を図っている。 | 1年間外出の機会を増やす取り組みを行ってきたが、コロナ禍でますます外出の機会が減っている。今後も安全面を考慮して、戸外での過ごし方を工夫し、利用者の満足度を高めることを引き続き期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 施設内の金銭管理は職員が行っている。利用者様から必要な物があれば購入している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご本人様から家族様へ電話したいといった要望があれば、その都度対応している。また手紙が届けば返事を職員が支援しながら行っている。 | | |
| 52 | (21) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホール内の装飾は季節的な物を掲示し、居心地の良い空間になるように工夫している。 | リビングは明るく、窓際にはソファが置かれ、そこから眺められる田園風景は四季の移ろいを感じさせてくれる。リビングの時計や日めくりカレンダーは見当識に配慮されている。壁には、利用者と職員が一緒に作った季節に合わせた折り紙作品が飾られている。リビングの一角には小上がりの和室があり、ひな祭りにはお雛様が飾られている。温・湿度管理、換気は職員が行っている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | テーブルで利用者様同士がお話をしたり、和室でテレビを見たり、思い思いの生活ができるような工夫を心掛けている。 | | |
| 54 | (22) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 自宅で使用していたものなどがあればお持ちいただき、使い慣れたものや好みの物で本人様にとって居室での空間が居心地の良いものになるよう工夫している。 | 居室にはベッド、クローゼット、エアコン、換気扇、空気清浄機、ナースコール、スプリンクラー、火災報知器が備わっている。各々自宅から馴染みのタンスやテーブル、椅子などを持ち込み、壁には手作りカレンダーや家族写真などが飾られ、利用者に合わせた部屋作りをしている。職員は毎日、掃除や温・湿度管理、換気を行い、居室担当職員が利用者と一緒にクローゼットの整理や衣替えをしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレの表示や居室の表示など行い、一人ひとりが安全に生活できる環境作りに努めている。 | | |